

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5700m付近で -15°C 以下の寒気を伴う切離低気圧が本州を北東進。切離低気圧沿いの正渦度極大域に対応した低気圧が東海道沖にあって北東進。低気圧に伴う前線は、日本のはるか東から沖縄の南へのびている。上空寒気の影響で、奄美海域から東海道沖では発雷を検知し、四国沖で1時間30mm以上の激しい雨を解析。伊豆諸島や関東地方沿岸部を中心に、低気圧の影響で、やや強い風や強い風が吹き、しけている所がある。

② オホーツク海には、高気圧があって南へ移動。高気圧と①の低気圧との間で気圧の傾きが急となり、北海道地方では局地的に、強い風が吹いている所がある。また、東シナ海の高気圧が南東へ移動、日本海の高気圧が西南西へ移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は6月2日にかけて、日本の東を北上し北海道東方海上へ進む。低気圧の影響で気圧の傾きが急となり、非常に強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。低気圧が予想以上に発達した場合、大しけとなる可能性がある。東北地方では6月1日にかけて、暴風に警戒し、高波に注意・警戒。北～東日本では1日にかけて、西日本では31日は、強風や高波に注意。また、低気圧に向かう暖湿流や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。北日本では1日にかけて、東日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。

② 500hPa 5760m付近の強風軸に対応した前線が、31日朝までに華中で形成され、2日にかけて東シナ海から西日本へ進み、東シナ海で前線上に低気圧が発生する。低気圧や前線に向かう暖湿流の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。南西諸島では1日から2日にかけて、西日本では2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、落雷や突風、降ひょうに注意。また、1項②の日本の南の高気圧と低気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。南西諸島～西日本太平洋側では2日は、強風や高波に注意。

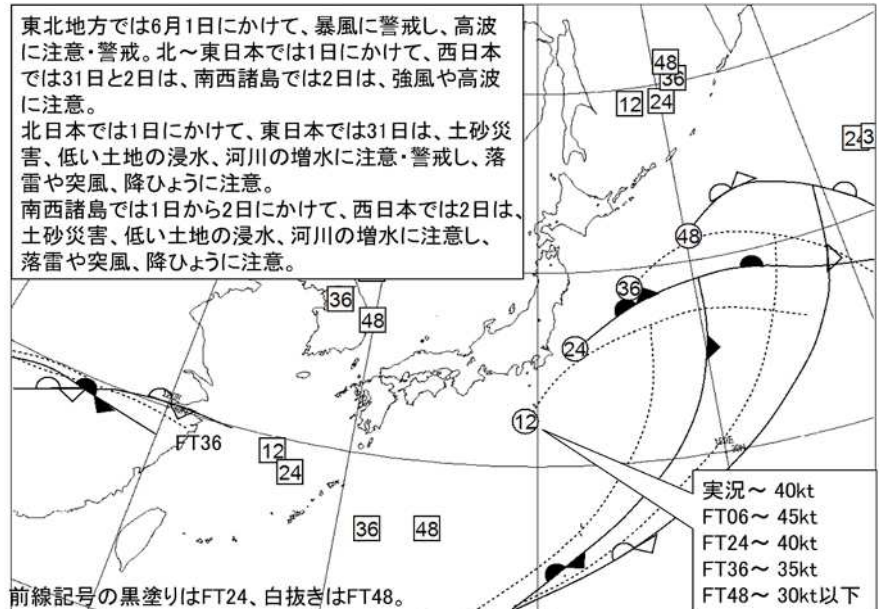
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧の位置や勢力、2項②の前線や低気圧はモデル間や初期値による差があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：東北120mm。

② 波浪(明日まで)：北海道・東北5、関東・伊豆諸島4、東海・近畿・四国3m。

③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図